

# 原発対策委員会新聞

社民党福島県  
連合原発対策  
委員会・

発行責任者  
小川右善

## 古川原発対策委員長年頭挨拶

# 明けましておめでとうございます。



### 再稼動・回帰を許さない

あけましておめでとうございます。念頭にあたり、一言ご挨拶を致します。原発震災後三年目を迎えることとなります。原発震災の爪あとはいまだ癒えることなく、依然として十四万人以上の避難を余儀なくされています。事故収束も汚染水のトラブルつづきで、ままたらざ、県民の不安はつきません。

県民は、事故から今日に至る苦悩のなかで、誰もが口走る「原発事故さえないから」の想いや、元の暮らしに戻せとする憤り、そして、もう原発はたくさんとする意志は、県民の総意でもあります。しかし、衆・参議員選挙で大勝した自民党安倍政権は、民主権や国民が目指した原発ゼロ政策と決別し、原発の再稼動や輸出する姿勢を鮮明にしました。事故の継続や、その検証や責任を曖昧にしたまま、核のゴミ問題も解決策が見つかりません。規制委員会を隠れ蓑として再稼動に意欲を示す姿勢は、資本・財界の意志を軸にした明確な原発事故前の原子力政策へ

回帰したものであり、断じて許すこととはできません。

社民党福島県連は、原発事故の未曾有の被害に対して、脱原発廃炉・被災者救済を掲げて選挙戦をはじめ、多くの諸課題をとりくみ、対策委員会の発足など、ようやく情勢に対応できようになりました。

風化の動きや、再稼動、被災者の生活再建、健康問題、賠償問題、除染、中間貯蔵問題など課題は山積しています。党内議論を基本に、すべての運動を党に集約し、積み上げた運動の成果を共有しながら、確実な運動の前進をはかりましょう。

二〇一四年一月一日  
古川正浩  
原発対策委員長



## 汚染水・収束問題で県要請行動

去る十二月二十六日、社民党県連は、県平和フォーラム、プルサーマルに反対する双葉住民会議でつくる脱原発県民会議とともに、県に對し、東京電力福島第一原発事故の収束と環境回復を要請した。

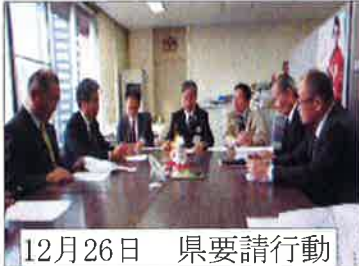
要請書は、一、国、東京電力の責任と原子力に依存しない社会に向けて、二、県の役割と責任について、三、収束・廃炉作業の確保と安全・健康管理について、四、原子力規制委員会について、五、中間貯蔵施設の設置について求めた。

とくに、トラブル続きの汚染水問題については、その背景のある収束宣言を指摘し、東京電力を破たん処理し、国の責任で抜本的対策を求めた。また、中間貯蔵施設は、その必要性を理解しつつも、帰還の妨げへの懸念や、双葉郡全体の復旧、復興政策やグラウンドデザインを示すべきと主張した。被ばく線量は個人線量で評価するとした政府の復興指針は過少に評価するものであると指摘した。

社民党福島県連合は、前回（十月十六日）要請した「子ども被災者支援基本法」に対する要請に引きつづくもので、小川代表以下古川原発対策委員長など十三名が参加した。参加者の声として「県要請はセレモニー的で形式的になる。事務局レベルで要請項目でやりとりがでないか」「県議の負担が重くなるので要請日のセットなど事務方でおこない、県議は参加型で良い」「党独自で行い内容を充実するべきだ」の意見があった。県



昨年末に事務所の除染が行なわれました。



12月26日 県要請行動

連は、総支部に独自に参加を要請、参加者が増えてきた。